



災害発生時に備えるために 水防・土砂災害訓練

5月21日、茅野市水防・土砂災害訓練が金沢小学校で行われました。

校庭では、茅野市の消防団約100名が水防工法講習会と河川排水訓練、倒木除去訓練を実施しました。

講習会では、土のうの積み方の講習や土のう作製を実施。訓練は河川からの越水被害を想定して行われ、被害現場へ向かう道を塞ぐ倒木をチェーンソーなどを使って除去し、越水現場を再現した水槽前で消防ポンプ車や小型ポンプを使って排水しました。

体育館などでは、市や学校職員、金沢地区内の区、自主防災組織から約50名が参加し、土砂災害の発生を想定した情報伝達訓練や避難・安否確認訓練、避難所開設・運営訓練などが行われました。

避難所の訓練では、実際に受付、プライベートテント、災害用トイレ等を設営し、運営方法を確認しました。

このほか、株式会社ミヤサカ工業が開発した浄水装置の実演も行われました。



絵本や読書への楽しみを持ち続けてほしい セカンドブック手渡し会

5月26日、「玉川小学校でセカンドブック手渡し会」が行われました。

セカンドブックプレゼントは茅野市内すべての小学校1年生に本を送る活動で、ファーストブックプレゼントで乳幼児期に生まれた絵本や読書への楽しみを小学生になっても持ち続け、家庭に読書を根付かせたいという願いから始められた活動です。

当日は、読リーむinちのメンバーや地域の方々の手渡しで、児童一人ひとりに本としおりを贈りました。受け取った児童は、保護者と一緒に本を読んだり、読み聞かせてもらったりして本を楽しみました。



願いを込めた風船を大空へ 第22回 小泉山体験の森 山開き

5月27日、小泉山体験の森創造委員会が主催する「第22回 小泉山体験の森 山開き」が小泉山山頂で開催されました。コロナ禍の影響で4年ぶりに行われ、子どもからお年寄りまで約300名が参加しました。

東部中学校吹奏楽部によるオープニングファンファーレを合図に、メッセージや願いを書いた紙を付けた自然の中でも分解されるエコ風船を大空に放ちました。玉川小、豊平小児童による歌の発表、市民団体によるオカリナ演奏、昔話の語り、ボーイスカウトの企画なども行われました。最後は全員で「ふるさと」を合唱し、山開きを祝いました。



丹精込めて作られたどぶろくを味わう どぶろく祭り

4月27日、茅野市本町の御座石神社の境内で「どぶろく祭り」が開催されました。新型コロナウイルスの影響で、神事のみを行っていた2020年以降、区民が集い、どぶろくを酌み交わすのは4年ぶり。当日は、祭りのために仕込まれたどぶろく約1,200リットルが振る舞われました。

どぶろく当番長のあさいつで一斉に乾杯して祝宴が開幕。各自で用意したお弁当などを食べながら、どぶろくを賞味していました。会場では、踊りなども披露され、祭りを盛り上げました。



泥だらけで田植えを楽しむ 多留姫文学自然の里 田植まつり

5月20日、多留姫文学自然の里の「神田」で「田植まつり」が開催されました。田植まつりは、多留姫文学自然の里創造委員会主催で年5回行われる米作り体験の初回。新型コロナウイルスの影響で、4年ぶりに子どもたちが参加する形で開催されました。当日は、小学生や保育園児の親子など約50名が参加し、昔ながらの手植えによる田植えを体験しました。

裸足で田んぼに入った子どもたちが、ぬかるむ足元に苦戦しながらも泥だらけになって楽しく田植えをする様子が見られました。



カタクリ観察ときのこの菌打ちで里山に親しむ 永明寺山ふれあいの森を創る会 春のイベント

4月22日、永明寺山ふれあいの森を創る会が主催する「春のイベント」が開催されました。参加した約50名が、カタクリ観察会ときのこの菌打ちを楽しみました。

カタクリ観察会は、創る会が保全活動を続けているふれあいの森のカタクリ群生地で行われました。見ごろを迎え一面に咲いたカタクリの花に癒されました。

観察会後には、ドリルでコナラの原木に穴を開け、シイタケの駒菌を打ち込むきのこの菌打ちが行われました。参加者は収穫を楽しみに菌打ちをしたほだ木を持ち帰りました。



新緑の里山を満喫 市民の森 第16回森開き

4月29日、市民の森(吉田山)で「市民の森第16回森開き」が開催され、小学生の親子など約50名が参加しました。

当日は、テープカットに見立てた丸太をカットするウッドカットで森開きがスタート。昨秋に市民の森で採取したコナラのどんぐりをプランターに植えるどんぐりの植ええや自然を観察しながら散策するウォークラリーなどが行われ、参加者は新緑の里山を満喫しました。

市民の森は11月中旬まで開放されていますので、ご利用ください。